

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	みんなのしるしごうどうがいしゃ	団体ウェブサイトURL	
	みんなのしるし合同会社	https://minnanos.com/	
代表者職・氏名	代表社員 前川秀樹		
制作団体所在地	〒 022-0002 最寄り駅(バス停) JR大船渡線BRT 田茂山駅		
	岩手県大船渡市大船渡町字地ノ森27-10 2階 (事務所・スタジオ: 〒022-0003岩手県大船渡市盛町字木町6-4)		
電話番号	0192-47-5123		
ふりがな 公演団体名	みんなのしるし	団体ウェブサイトURL	
	みんなのしるし	https://minnanos.com/	
代表者職・氏名	代表社員 前川秀樹		
公演団体所在地	〒 022-0003 最寄り駅(バス停) 盛駅(三陸鉄道・JR)		
	岩手県大船渡市盛町字木町6-4(事務所・スタジオ)		
制作団体 設立年月	2012年10月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表社員:前川秀樹	役員1名 監査役2名(外部監査) 事務局員4名 振付家3名 加入条件: 芸術創造に関わり専門技術を有する方、実演家、制作スタッフ	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の事業と兼任の事務 担当者を置く	本事業担当者名	川元一恵
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	前野沙緒里
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	minna@mi-kuni.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>みんなのしるし代表社員・前川十之朗(本名:前川秀樹)は、演出家としてベルリン(独)を拠点に欧州で舞台創作活動を行っていた。そんな中、東日本大震災が発生。2012年春に帰国後、国の委託を受け三陸沿岸の住民約70名の被災に関わる聞き取り調査を行った。その取材から、被災した地域を真に復興させていくのは、未来を担う若者たちであるということ、そして、失われつつある貴重な祭りや芸能という文化がこの地域の大きな魅力であり財産であるということを確認。被災の事実と東北の文化をさまざまな方法で表現・発信することを目的とし、2012年10月みんなのしるし合同会社を設立。集めた証言をもとにより多くの人々に事実を伝えたいという思いからミュージカル『いのちてんでんこ』を制作。2013年秋に高等学校で初演、現在まで全国の学校の芸術鑑賞を中心に60公演行っている。2013年より文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業『習いに行け!東北へ!!』をコーディネート。2014年からは三陸の自治体や団体とともに三陸国際芸術祭を毎年開催。2015年より国際交流基金アジアセンター主催「Sanriku-Asian Network Project」にて三陸の芸能伝承者のアジア派遣をコーディネート。文化庁との共催事業「アジア神々の系譜」を2018年より開始。本年は、令和6年度日本博2.0事業(委託型)プロジェクトとして、三陸国際芸術推進委員会・独立行政法人日本芸術文化振興会・文化庁主催「三陸国際芸術祭2024『訪レ』」海外郷土芸能団体部門ディレクター、同連携イベント三陸ブルーラインプロジェクト事業事務局を担う。</p> <p>【受賞歴】「いのちてんでんこ The MOVIE」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Oniros Film Awards® - New York 2022年4月度 Winner ・第27回 The Indie Gathering International Film Festival 2022年Winner ・SoCal Film AWARDSシーズン15 ダイヤモンドアワード 2022年Winner 	
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2013(平成25)年より学校公演実績あり 累計約100公演</p> <p>(直近)</p> <p>○2021(令和3)年度 「いのちてんでんこ」山形県川西町(町教育委員会主催公演、自主公演) 「髪長姫」岩手県陸前高田市1公演 (国際交流基金アジアセンター、三陸国際芸術推進委員会主催公演) 「いのちのかたりつぎ」宮城県石巻市1公演(宮城県心の復興支援事業) *「いのちのかたりつぎ」は2022(令和4)、2023(令和5)年度も同様開催</p> <p>○2022(令和4)年度 「いのちてんでんこ」全国6公演(学校芸術鑑賞会・各学校主催) 「いのちのかたりつぎ」岩手県内1公演(学校芸術鑑賞会・学校主催) 「ミュージカル シシ〜こころしずかに遊べ我が連れ〜」 宮城県内4公演(学校芸術鑑賞会・学校主催、自主公演)</p> <p>○2023(令和5)年度 「いのちてんでんこ」全国7公演(学校芸術鑑賞会・各学校主催) 「ミュージカル シシ〜こころしずかに遊べ我が連れ〜」 全国9公演(芸術文化振興基金巡回事業)</p>	
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>○2020(令和2)年度「ミュージカル シシ〜こころしずかに遊べ我が連れ〜」 岩手県立気仙光陵支援学校(PTA行事にて、感染症対策のためオンライン鑑賞)</p> <p>○2021(令和3)年度「いのちてんでんこ」岩手県立盛岡青松支援学校中学部 修学旅行(岩手県沿岸南部方面)における復興学習・事前学習でのオンライン鑑賞 修学旅行(大船渡市)における講話</p> <p>○2022(令和4)年度「いのちてんでんこ」岩手県立気仙光陵支援学校 (防災教育のための教員研修としてワークショップとあわせて実施)</p> <p>○2023(令和5)年度「三陸のふしぎないきもの」岩手県立気仙光陵支援学校(ワークショップ形式)</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p> <p>※公開資料有の場合URL</p> <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>有</p> <p>ダイジェスト:https://youtu.be/lvJ8iGQok4Q 学校巡回公演: https://youtu.be/8cknv8tSjcw 演目HP:http://inochi.xyz</p> <p>ID: _____</p> <p>PW: _____</p>

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 みんなのしるし】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	ミュージカル いのちてんでんこ			
企画のねらい	<p>「いのちてんでんこ」は、東日本大震災の被災者の証言を題材に構成されています。東北の自然や郷土芸能を、演劇要素のみならず歌やダンスで力強く表現し、音楽の持つ力や身体表現の素晴らしさに触れていただくとともに、災害の記憶を風化させず、命の尊さや地域社会とのつながりの重要性を伝えることを目的としています。災害時に直面した喪失感とそれに立ち向かう人々の姿を通して、自然とともに生きていくことの意味や、大切な人たちと過ごすかけがえのない時間について考える機会を提供し、未来に備える力・思いを様々な形で表現し伝える力を育ててほしいと考えています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>「ミュージカル いのちてんでんこ」</p> <p>演目概要 『おら、生きる。ここで生きる。』 「いのちてんでんこ」は、大船渡市・陸前高田市・気仙沼市など、東日本大震災の被災地で集められた約70名の証言をもとに制作された感動の舞台です。郷土芸能や祭り、小集落の結びつきの強さ、そしてこの地で育まれた独自の文化と営みの奥深さを丁寧にすくい上げ、津波が奪った多くの命と、壊滅的な被害を受けた地域がいかに再生したかを描きます。音楽、ダンス、デジタル映像を駆使した迫力あるパフォーマンスは、鑑賞者に強い共感と希望を生み出し、震災後の復興の過程をリアルに伝えます。物語の中心は、市役所に入庁したばかりの若者が、震災をきっかけに地域のコミュニティと向き合い、命の輝き、郷土芸能や祭りに込められた絆の力、そして生まれ育った故郷の素晴らしさに改めて気づいてゆく姿です。その体験を通じて観客は深く感動し、未来を生きる力を感じることができます。</p> <p>演目選択理由 本演目はこれまで、中学校や高等学校の芸術鑑賞教室を中心に約6万人の子どもたちに「いのちの輝き」を伝えてきました。実際の証言を基にしたストーリーに現代舞踊やデジタル映像を融合させ、視覚的にも強烈なインパクトを与えながら、災害の教訓と命の尊さ、そして地域の絆を学ぶことのできる新しい形の舞台芸術です。三陸沿岸地域には古くから伝わる貴重な芸能が数多く残っています。子どもたちが郷土芸能に触れ、独特な歌や踊りを体験することで、日本の歴史や文化の一端を体験することができます。これにより、キャストや仲間と一体になる喜びや感動を味わい、表現することの楽しさを実感することができると思います。臨場感のある演技と音楽によって、災害の記憶を風化させず次世代に命の輝きを伝えると同時に、心をつなげて何かを作り上げる素晴らしさを学べる教育的意義の高い作品として、この演目を選択しました。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>1.この作品には、東北の営みの中で培われた郷土芸能のエッセンスを現代のダンスと音楽でアレンジして表現するシーンが多数あります。物語の中の重要な「お祭り」のシーンで、代表の児童・生徒が舞台上上がり、歌や踊りを発表します。それに合わせて、児童・生徒全員がフロアにて参加し、歌と踊りと自作の楽器で共演します。</p> <p>2.被災の記憶や祭りの意味などについて見聞きし、感じたことをもとに創作する”心の落書き”を舞台美術として使用します。ワークショップで描かれた児童・生徒の色彩豊かなイメージや文字を映像にして舞台上げ、美術表現による共演を果たします。低学年や支援学級の児童でも無理なく楽しく参加することができます。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～20名程度(舞台上で共演する児童生徒)	
		鑑賞人数目安	～300名程度	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【本公演演目】ミュージカル いのちてんでんこ 作(脚本・作曲)・演出: 前川十之朗 構成: 田中圭介、振付: 小山 柚香、乾 直樹、緒方 祐香、前田 新奈 美術: 井上信太、荒川真央香 音楽: 斎藤 有太 衣装: さとう みち代</p> <p>【演目構成】 1. 挨拶 2. ミュージカル「いのちてんでんこ」第1幕(前半) (休憩15分) 3. ミュージカル「いのちてんでんこ」第2幕(後半) 共演シーンあり(ワークショップで練習した歌・踊り・楽器演奏) 4. 挨拶・感想発表 ※他、出演者等へのインタビューや仕込見学など観劇以外の交流については、学校からのご要望に可能な限り対応します。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
出演者	大/玉崎 コウ 先輩/飯沼 由和 雪/福島 梓 新沼/長谷川 暢 アンサンブル/小山 柚香、合田賢二、湯浅 文音 尺八・篠笛/大部 仁			

<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>演出:前川 十之朗 演出家、作曲家、三陸国際芸術祭ディレクター。1987年から音楽家として活動し、ミッキー吉野や氷室京介等、多くのアーティストと共演。2002年に舞踊集団「未國」を設立、演出や音楽を手がける。2012年から三陸沿岸に移住し被災者取材。その証言を未来に生かすためミュージカル「いのちてんでんこ」を制作、6万人以上の子供たちが観劇している。 出演・振付:小山 柚香 コンテンポラリーダンサー。クラシックバレエ・ジャズダンス・コンテンポラリーダンス・声楽・演技を学ぶ。パフォーマンス・シアター・グループ Comp.を主催、国内外で数々のパフォーマンス作品を発表。イベントやワークショップの企画、地方でのレジデンス活動も行う。junjun science、ピチエ・クランチェン、GRINDER-MAN等の作品への出演経験をもつ。 出演:長谷川 暢 Co.山田うんや和太鼓+ダンスユニット「まだこぼやし」メンバー。郷土芸能とダンスを交差させ新たな表現を追求している。ワークショップリーダーとしても活動し、呼吸と身体の連動性を探るダンス、楽器を使った「ダンス×太鼓」、郷土芸能や動物の動きを取り入れたミュージカルワークショップ、オリジナル盆踊りの作成など幅広い活動を展開中。 ※小山、長谷川は、ともに三陸国際芸術祭の三陸芸能短期留学(オンライン)にて、三陸沿岸地域の民俗芸能を習う。</p>		
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 8 名 スタッフ: 9 名 合 計: 17 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 2/4 t 車 長: 4.7/9 m 台 数: 2 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		4時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時	13時15分～15時	15分	15時～17時	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認 められません)	6月	7月	8月	9月
	0日	15日	0日	10日
	10月	11月	12月	1月
	10日	20日	20日	15日
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	90日



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 みんなのしるし】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p><映像を通して祭りの楽しさ、大切さを学ぶ> 東日本大震災直後、被災地の集落を一つに結びつけたのは「祭り」でした。多様な東北の芸能が地域コミュニティを支え続けてきた歴史や、巡回地域の芸能・自然災害の歴史について、オリジナル映像等を用いながら学びます。自分たちの住む地域の自然災害や芸能についても触れ、講師や仲間と意見を交換することで、作品「いのちてんでんこ」の世界を身近なものとして捉えられるようにします。これにより、児童・生徒の興味関心を高め、主体的に学びに取り組む姿勢を育みます。</p> <p><歌・踊り・楽器演奏の楽しさ、一体感を感じる> 本公演での共演シーンに向けた事前練習を行い、児童・生徒の期待感を高めます。まずは挨拶やお辞儀といった日常的な動作を通じて、声を出す、体を動かす楽しさや心地よさを体感します。徐々に共演する歌・踊り・楽器演奏を組み合わせ、共演の一体感を作り上げていきます。作品の中の楽曲と一緒に歌い、踊り、奏でることで、ミュージカルを共に創り上げる達成感や人と繋がる素晴らしさを感じられるよう指導していきます。</p> <p><描くという表現方法で感じたことをありのままに表出し、共有する> 映像学習で感じたことを、小グループに分かれてイラストや文字などで自由に表現し、見聞きしたことをアウトプットする場を設けます。各グループは模造紙に思い思いに感じたことを描き、その後テーブルを移動して他グループの表現に新たな表現を付け加えながら、テーブルごとの様々なテーマについて自由に意見交換を行います。最終的には、表現したことをグループごとに発表し合い、多くの気づきを得ることで、学びを深められるようにしていきます。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>～100名程度</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>標準：3時限程度(2～4校時を想定。学校のご要望に応じ、2時限でも実施可能です。)</p> <p>1.導入(挨拶～講師自己紹介)5分</p> <p>2.震災のこと、お祭りのこと 25分 作品「いのちてんでんこ」の世界について、映像等を用いながら対話形式で学びます。講師5名は児童・生徒の列に入り、一人一人の声をすくいあげながら進められるようサポートします。 (内容:「いのちてんでんこ」って何? / 東日本大震災のこと / 郷土芸能やお祭り)</p> <p>3.共演曲「こっつあこ」を鑑賞しよう 10分 ・講師全員でデモンストレーションを行い、歌、踊り、楽器(自作シェイカー)演奏を披露します。 ・児童・生徒と一緒に歌えそうな人には一緒に歌ってよいことを伝えます。 ※参加児童・生徒には事前に砂(事前に郵送する)とペットボトルでシェイカーを作っておいていただきます。 ※事前に担当の先生に「こっつあこ」の映像、楽譜、歌詞をお送りします。可能であれば普段の昼の放送で曲を流していただく、授業で鑑賞していただくなどして児童・生徒とも事前共有します。</p> <p>4.振り返りと次時の予告 5分</p> <p>(休憩)</p> <p>5.体ほぐし 20分 「こっつあこ」共演練習に向けたウォーミングアップをします。日常動作から始め、徐々に「こっつあこ」で踊る動きを取り入れていきます。(内容:真似をしよう / 人がいないところを探して動こう)</p> <p>6.歌とシェイカーで練習後、基本の足踏みを合わせてみよう 20分 ・壁にプロジェクターで歌詞を映し、一緒に歌います。 ・特に全員が一緒に声を出すとカッコいいフレーズ、掛け声の部分をポイントに練習します。 ・シェイカーの持ち方、振り方のポイントを確認し、鳴らしながら歌います。</p> <p>7.振り返りと次時の予告 5分 (休憩)</p> <p>8以降は2グループに分かれて実施 45分</p>		

	<p>(児童・生徒の実態に応じ、グループ分けは事前に学校と相談して決定します。)</p> <table border="1" data-bbox="422 168 1412 660"> <tr> <td data-bbox="422 168 917 660"> <p>【身体的表現】(代表の児童・生徒を含みます) 8.「こつつあこ」共演練習 ・相撲の四股を踏むような足踏み練習 ・途中の振り付けや終わり方の練習 ・輪踊りの形で歌、踊り、シェイカーを合わせて練習 ・共演前後の動きを含めた当日リハーサル練習 代表の児童・生徒は輪踊りで、他の児童・生徒は歌とシェイカー(児童・生徒数や学校のご要望に応じて他の児童・生徒も客席での足踏みを加える)を通して練習</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p> </td> <td data-bbox="917 168 1412 660"> <p>【美術的表現】 8.「心の落書き」で舞台美術を作ろう ・児童・生徒6人ぐらいつの班に分かれ、班数の模造紙を用意。1・2時限に学んだ内容をもとに模造紙ごとの「テーマ」を設定します。 ・2分程度で講師がデモンストレーションし、前時で感じたことをイラストや文字などで表現していくことを伝えます。 ・落書きを開始して10分程度を目安に隣の模造紙へ移動。違うテーマについて落書きをします。最後にシェアリングの時間を設けます。</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p> </td> </tr> </table>	<p>【身体的表現】(代表の児童・生徒を含みます) 8.「こつつあこ」共演練習 ・相撲の四股を踏むような足踏み練習 ・途中の振り付けや終わり方の練習 ・輪踊りの形で歌、踊り、シェイカーを合わせて練習 ・共演前後の動きを含めた当日リハーサル練習 代表の児童・生徒は輪踊りで、他の児童・生徒は歌とシェイカー(児童・生徒数や学校のご要望に応じて他の児童・生徒も客席での足踏みを加える)を通して練習</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p>	<p>【美術的表現】 8.「心の落書き」で舞台美術を作ろう ・児童・生徒6人ぐらいつの班に分かれ、班数の模造紙を用意。1・2時限に学んだ内容をもとに模造紙ごとの「テーマ」を設定します。 ・2分程度で講師がデモンストレーションし、前時で感じたことをイラストや文字などで表現していくことを伝えます。 ・落書きを開始して10分程度を目安に隣の模造紙へ移動。違うテーマについて落書きをします。最後にシェアリングの時間を設けます。</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p>
<p>【身体的表現】(代表の児童・生徒を含みます) 8.「こつつあこ」共演練習 ・相撲の四股を踏むような足踏み練習 ・途中の振り付けや終わり方の練習 ・輪踊りの形で歌、踊り、シェイカーを合わせて練習 ・共演前後の動きを含めた当日リハーサル練習 代表の児童・生徒は輪踊りで、他の児童・生徒は歌とシェイカー(児童・生徒数や学校のご要望に応じて他の児童・生徒も客席での足踏みを加える)を通して練習</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p>	<p>【美術的表現】 8.「心の落書き」で舞台美術を作ろう ・児童・生徒6人ぐらいつの班に分かれ、班数の模造紙を用意。1・2時限に学んだ内容をもとに模造紙ごとの「テーマ」を設定します。 ・2分程度で講師がデモンストレーションし、前時で感じたことをイラストや文字などで表現していくことを伝えます。 ・落書きを開始して10分程度を目安に隣の模造紙へ移動。違うテーマについて落書きをします。最後にシェアリングの時間を設けます。</p> <p>9.感想発表を児童・生徒数名にさせていただくとともに、本公演に向けて期待感が高まる挨拶をして終了します。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>各校の児童・生徒の実態等に応じ、参加人数や対象学年、ワークショップの内容を検討します。特別支援学校など、特に支援を要する児童・生徒が対象となる際は、学校との事前打ち合わせをいっそう密にし、柔軟に対応します。</p> <p>・子どもたちの参加の仕方について事前打ち合わせを行い、一人一人が主体的に参加できるよりよい方法を学校と一緒に決めていきます。 (例:鑑賞内容や説明方法の工夫、踊りの一部を簡略化、実態に応じ楽器の形状等を検討、聴覚過敏やPTSD、訪問教育等の理由によりワークショップ会場に入ることが難しい子供たちもZoom等でつながりながら参加できる可能性を探るなど)</p> <p>・「心の落書き」では、主体的な制作活動を促すため、必要に応じて下絵の準備等を検討します。少人数グループにて活動し、講師がテーブル間を巡回して対話しながら、イメージを具現化できるよう支援します。原則は団体で準備した画材を使用しますが、実態に応じ学校で他の画材を準備することもできます。</p> <p>○参考動画: 中学校でのワークショップ映像 https://youtu.be/8YYinTAPG9g</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 <u>みんなのしるし</u> 】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 「いのちてんでんこ」は、これまでに60公演以上を全国の学校で実施してきました。その過程で、スタッフや出演者は足繁く被災地三陸を訪れ、現地に入り、多くの方々と触れ合い、郷土芸能を学び、被災地の文化や生活に根ざしたクリエイションを積み重ねてきました。また、キャスト・スタッフともに、学校や地域での子どもワークショップ(身体表現、美術、演劇など)を行い、子どもたちと向き合う活動を重ねてきました。その中で、子どもたちが芸術に触れ、五感で感じ、表現する体験が、子どもの成長にとって非常に重要な要素であると感じています。</p> <p>【本事業を通じて実現したいこと】 子どもたちが自己表現の喜びや他者と協力して一つの作品を作り上げる達成感を味わい、コミュニケーション能力や協調性を育む貴重な機会となることを目指し、子どもたちの自己肯定感の向上につながる機会にしていきたいです。子ども向けワークショップに精通したプロのパフォーマーが児童・生徒一人一人の得手不得手や感情をくみとりながら活動をフォローします。</p> <p>学校の体育館という日常空間を特別な非日常の舞台に変え、子どもたちに驚きと感動を与えます。慣れ親しんだ場所が舞台美術や照明、音響によって劇場のような空間に変わることで、児童・生徒が特別な感動を味わうことができ、芸術鑑賞への興味関心を高められると考えます。この体験が一人一人の心に強く残り、将来、自ら劇場に足を運んだり、表現者の一員として舞台に立ったりするきっかけとなることを願い、関係者一丸となって取り組んで参ります。</p> <p>自然災害の多い日本で生きていく子どもたちに、命の大切さや地域文化の魅力、人と人とのつながりの大切さを体感していただくことを目指します。東日本大震災から10年以上が経過し、震災の記憶の風化が進む中で、被災地の学校においては「防災教育が子どもたちにとって自分事となりにくい」「多忙な教育現場で新たなアイデアを生み出すことが難しい」といった声が上がっています。本作品との出会いが未来に向けた備えと地域への愛着を育む一助となるよう、被災地からいただいた大切な言葉を紡いでいきたいと考えています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.児童生徒の実態に応じた工夫 「その他ワークショップに関する特記事項等」参照 2.実施校との綿密な連携 管理職の先生方や担当の先生方と事前の十分な打ち合わせを行い、コミュニケーションを重ねながら各校の教育方針や児童・生徒の特性に応じたワークショップ・公演を目指します。ワークショップ内容や本公演での共演に向けた事項については、各校のご要望を踏まえ、学校の学習指導案の様式に準じた形で実施計画をお送りし、事前にねらいや内容を共有します。 3.充実したワークショップ 映像や証言を用いた学習を行い、子どもたちが「いのちてんでんこ」の世界について理解を深めた上で、様々な表現活動を一緒に体験します。講師陣が一人一人に寄り添いながら指導を行い、得られた達成感や学びを今後の生活の中でも生かせるようサポートします。 4.非日常空間の創出による効果的な演出 学校の体育館や講堂に舞台美術と機材を持ち込み、劇場のような非日常空間を演出することで、児童・生徒がいつもとは異なる特別な体験をできるようにします。圧倒的な舞台セットと演出により、日常では味わえない感動を提供し、鑑賞効果を高めます。 5.本公演実施後の児童・生徒への継続的な学び 令和5年度学校巡回公演事業の実施後、東日本大震災について、各校の子どもたちから手紙やメール、「いのちてんでんこ the MOVIE」のYouTubeページへの感想コメントを多数いただきました。小中学校において情報教育を受けている児童・生徒の情報活用能力を生かし、今後は弊社ホームページにて直接感想や意見を寄せてもらい、Q&A形式で対応できるようにします。ホームページの活用についてを事前ワークショップで紹介することで、本公演鑑賞後のさらなる継続的な学びに繋がります。